

平成 28 年 2 月 26 日

清水町議会議長 加 来 良 明 様

清水町議会産業厚生常任委員会
委員長 奥 秋 康 子

所 管 事 務 調 査 に つ い て

常任委員会活動として行う所管事務調査について、このたび調査を終えたので、その結果を下記のとおり報告いたします。

記

1. 調査事項 地域包括ケアシステムの現状と課題について

2. 調査期日 平成 28 年 2 月 4 日

3. 調査の結果

本町においても、高齢化の一層の進展、一人暮らしの高齢者や高齢者だけの世帯の増加、認知症の高齢者も増加傾向にあり、住民のニーズに応じた地域包括ケアシステムの構築を目指して保健福祉課内に清水町地域包括支援センターが設置されている。その事業等についての現状と課題を担当課から説明を受けて調査を実施した。

(1) 地域包括ケアシステムの現状について

平成 27 年度に地域支援事業として実施されている介護予防事業では「いきいき教室」を開催し、生活機能の低下により要支援、要

介護になる恐れがある高齢者を対象として、専門スタッフによる体力測定や転倒予防体操などの個別の運動指導等を実施し、栄養士や歯科衛生士による個別相談や講話、口腔体操などを行っている。また、「介護予防講演会」を介護予防普及啓発事業として行い、認知症看護認定看護師や音楽を使って健康づくりを指導する講師からの講演なども行っている。

他には、65歳以上の方々が行ったボランティア活動の実績に応じてポイントを付与する「介護予防ポイント制度」を実施しており、地域貢献や社会活動に積極的に参加することを通じて介護予防につながることを目的として行っている。この事業には78人が登録されており、ボランティアの多くは町が行っている介護予防事業や社会福祉協議会が行う事業に参加されている。

包括的支援事業として実施している「認知症サポーター養成講座」においては、平成18年度から計28回の講座が開催されて、述べ1,134人が受講している。また、「ネットワークづくり」として高齢者虐待防止と徘徊高齢者SOSネットワークシステムの構築、更には、「ケース連絡調整会議」を実施して包括的に介護などが必要な方々やその家族を支援するための事業が行われている。

その他として、郵便局、新聞販売店、生協などの協力を得て「地域の異変」を役場に通報していただく「高齢者見守り活動に関する協定」を平成25年から結んでいる。また、高齢者等見守り安心事業として、ひとり暮らしの高齢者の安否の確認と会話の機会を増やす活動を行い、ひとり暮らしの高齢者の孤独感を解消する活動を行っており、清水町介護マーク名札配布事業では介護中ということが理解されやすい環境づくりを行っている。

町内の平成28年1月末現在の介護認定者数は676人で、その内認知症と言われる方が333人、寝たきりとなっている高齢者は41人いるとのことだった。10年後には被介護者の数がピークを迎える中で、行政だけの取り組みでは難しいのではないかとの委員からの意見に、現在は高齢者が高齢者を見守る形になっており、ボランティア団体の会員からは会員も高齢化しているが自分たちが好きで

行っている、これからも団体の活動を継続してほしいという声も聞こえており、各ボランティア団体の取りまとめを行っている社会福祉協議会とも連携を深めながら地域の方々のためだけではなく、自分自身のためのボランティア活動を含めて、多くの方々が支え合う地域づくりを行い、そしてそこに参加してもらえるような体制づくりを行っていくという話を担当課から聞くことができた。是非とも多くの町民が不安に感じている今後の介護の在り方について協議を重ねて、よりよい体制を築いていただきたい。

(2) これからの地域包括ケアシステムの課題と推進について

町内においては、認知症高齢者が65歳以上の約1割で、認知症は高齢に伴う病気であり、長生きをするほど認知症の方が増えてくることがわかっており、その対応策としては町内に専門医がいないことから、帯広市内の専門の医療機関との連携づくりが必要となっている。

年齢を重ねると筋力の衰えが進み、転倒した際に骨折などの重傷化するけがが増えてくるが、けがの予防策として、体の活動量を増やすことである程度の筋力の低下を防ぐことができることから、町内の理学療法士や作業療法士の方との連携を図り、活動が不十分な方への活動の場の設定が必要となってくる。現在すでに実施されていて、家から出るだけでも運動になる「いきいき教室」などへの参加を促し、参加している周りの方々との交流を通じて、その活動する回数を更に増やしていく取り組みがこれから望まれる。

委員会では、介護認定者の約半数が認知症になっていることから、少しでも抑えることに力を入れ、要支援1・2の方々への支援については地域の力が必要であり、再度認識を新たに努力してもらいたいとの意見が出された。

高齢者の社会参加として積極的に取り組んでいる老人クラブもあるが、近年参加数の減少が気になるところでもあり、積極的な声かけも必要である。また、生涯学習の一環として高齢者学級が開催さ

れているが高齢者学級では修学旅行の他、各種クラブ活動や講座を開催し、多くの生徒が積極的に参加して学習に励み高齢者同士の仲間づくりを進めている。このような高齢者が楽しく参加のしやすい場を町として継続して提供してもらいたい。

また、住まいに関する不安を抱えた高齢者が多くいることから12月議会で所管事務調査報告を行ったように、早急に高齢者住宅を提供することが求められる。

第6期清水町高齢者保健福祉・介護保険計画では、高齢者が介護を必要とする状態になっても人としての尊厳を保って生活できることが大切であり、その人らしい生活が継続できることを重視するとしている。

これからも医療、介護、予防、住まい及び自立した生活支援サービスを切れ目なく提供する地域包括ケアシステムの構築を一層進めていきたい。